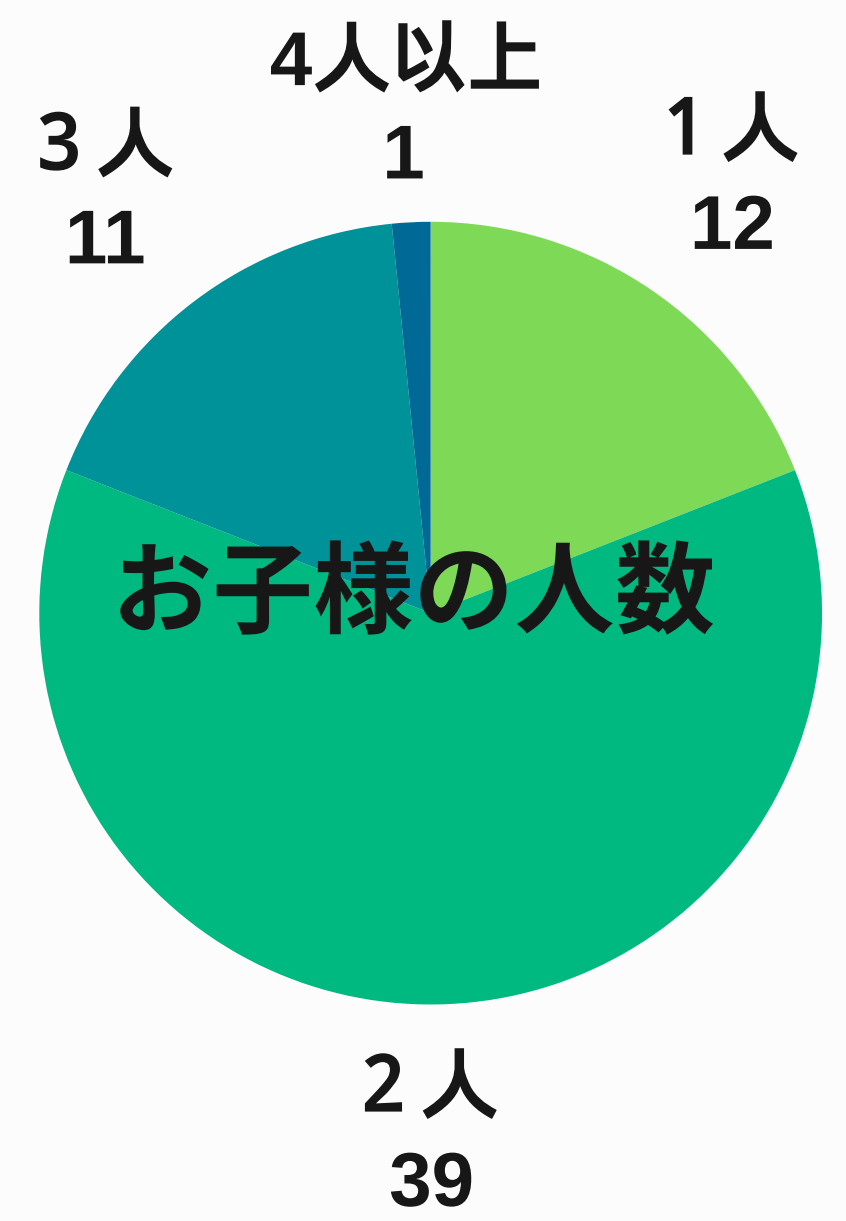
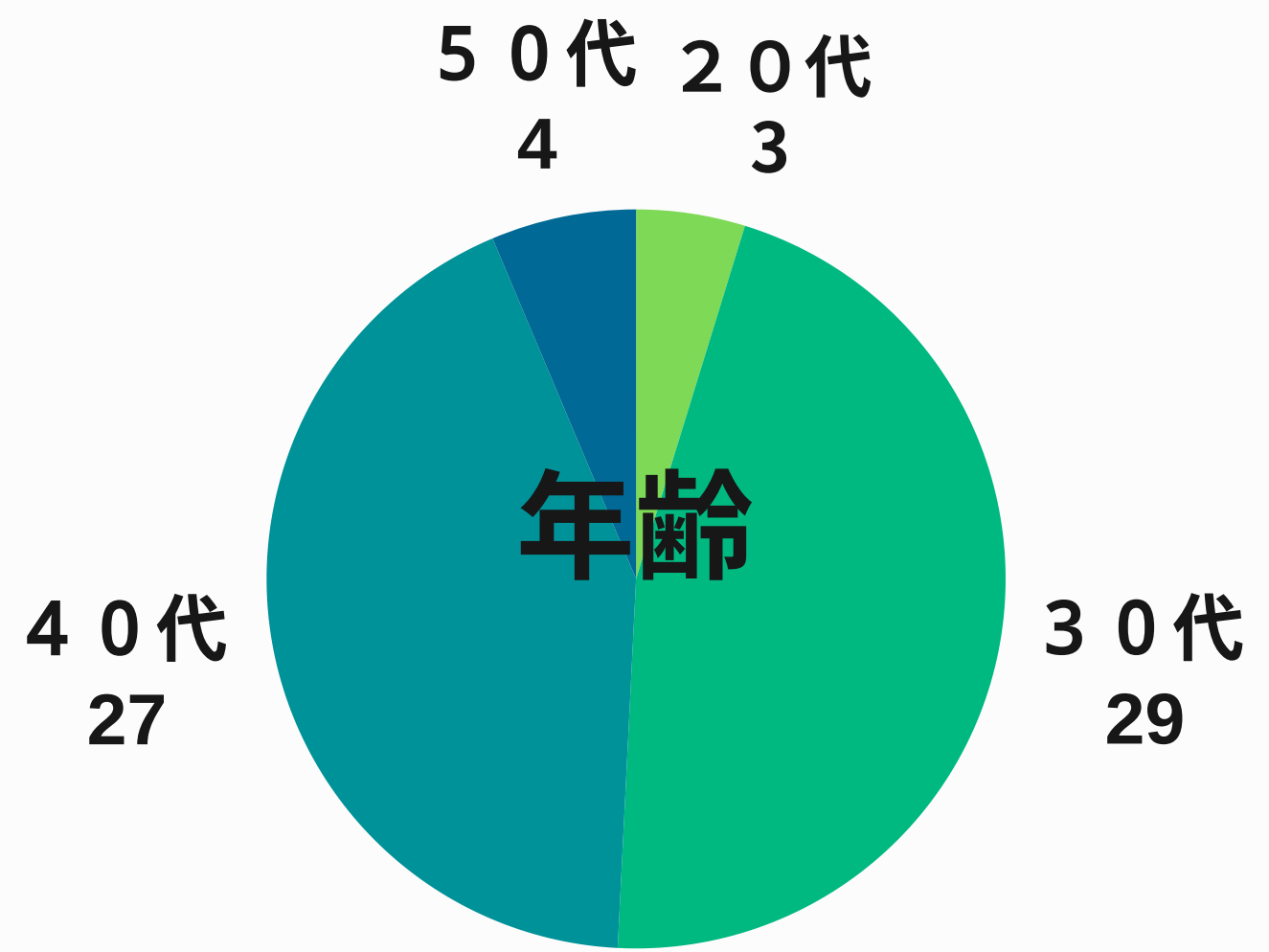
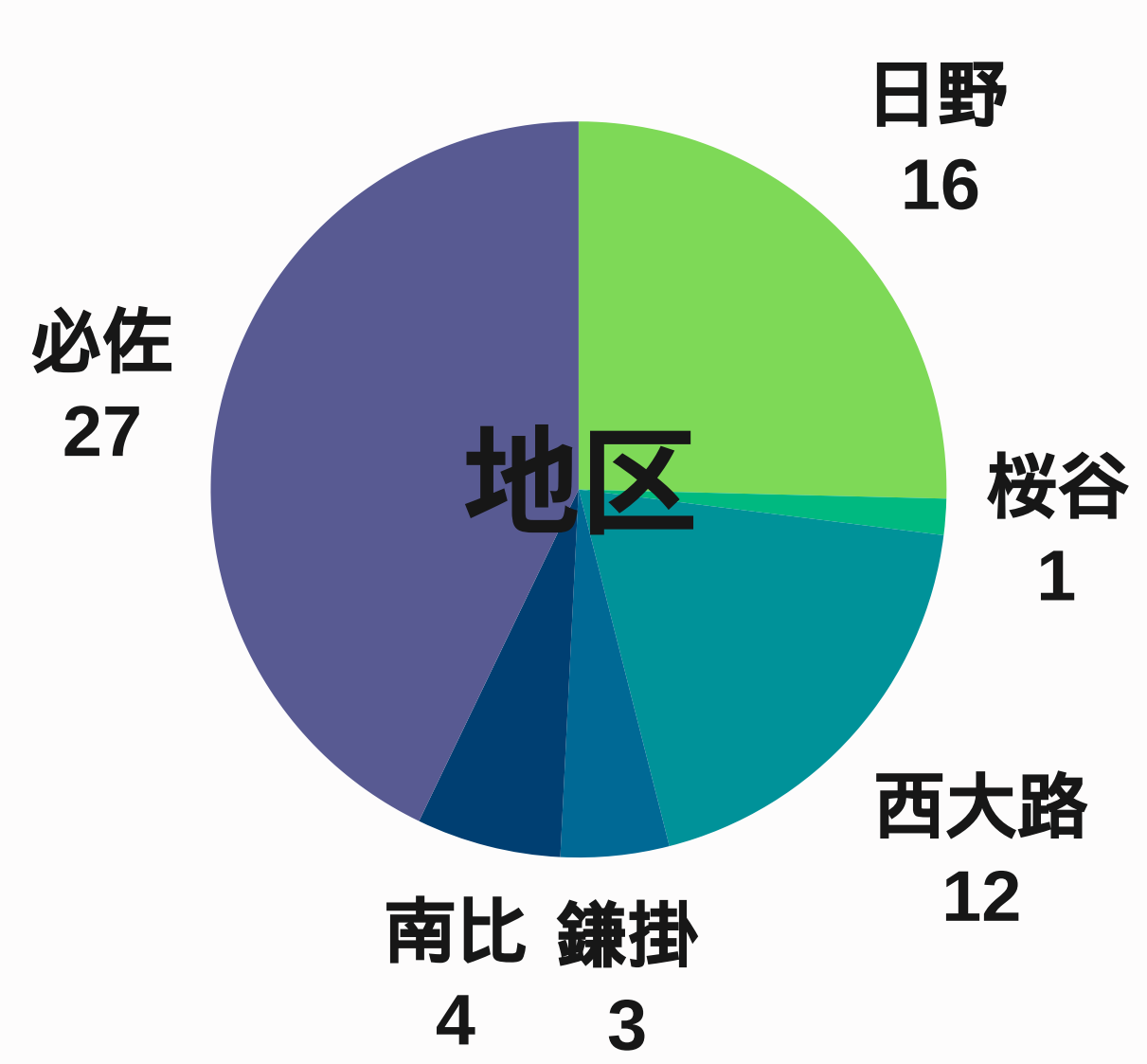


松尾公園・大谷公園に関するアンケート概要

- 期間 : 5月27日(月)～6月1日(土)
- 対象 : 0～15歳の子どもを持つ町内在住20～50代の男女
- 回答数 : 63名(女性38名、男性25名)
- 項目 : ①松尾公園・大谷公園に行く頻度/月
②公園満足度(1～5段階、3を基準とする)
③満足度の理由
④松尾公園・大谷公園全体への意見、改善点や要望など



松尾公園

行かない

9



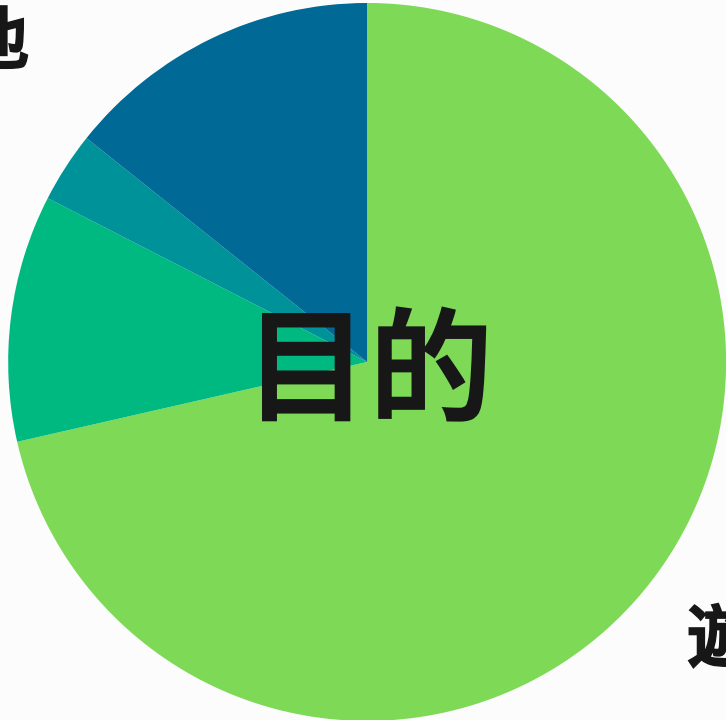
頻度

月2回以上
18

その他
2

イベント
7

行かない
9

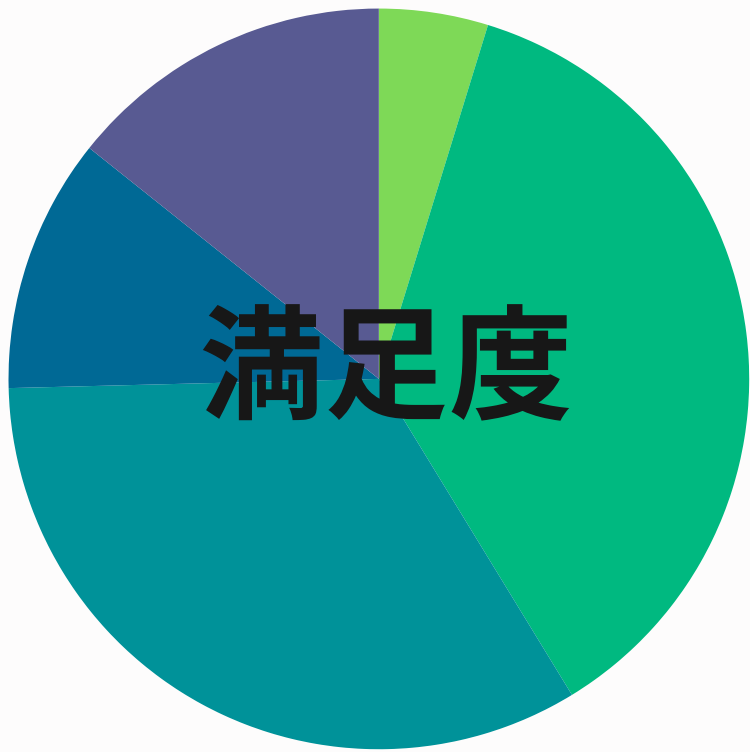


目的

遊び
45

満足度2
7

行かない 満足度5
9 3



満足度

満足度3
21

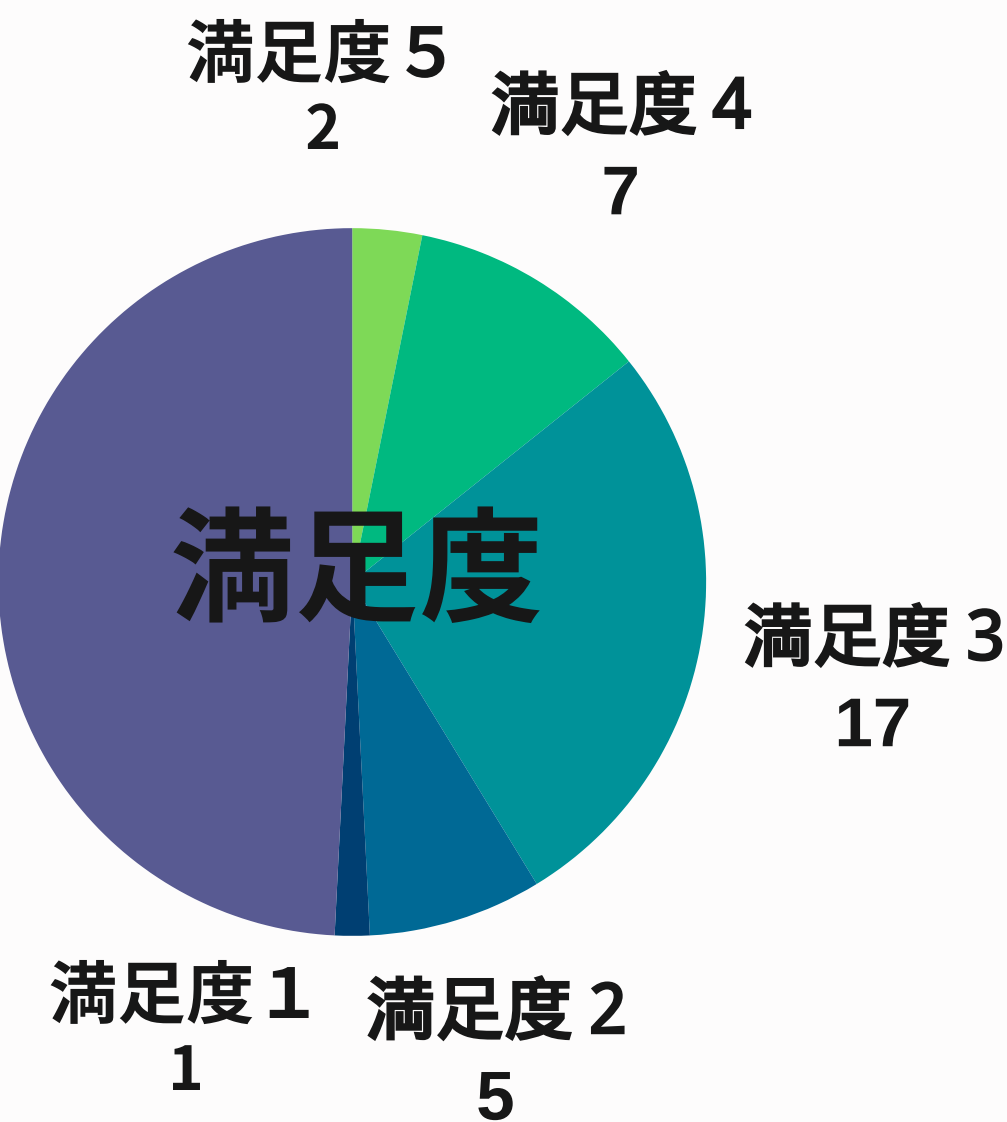
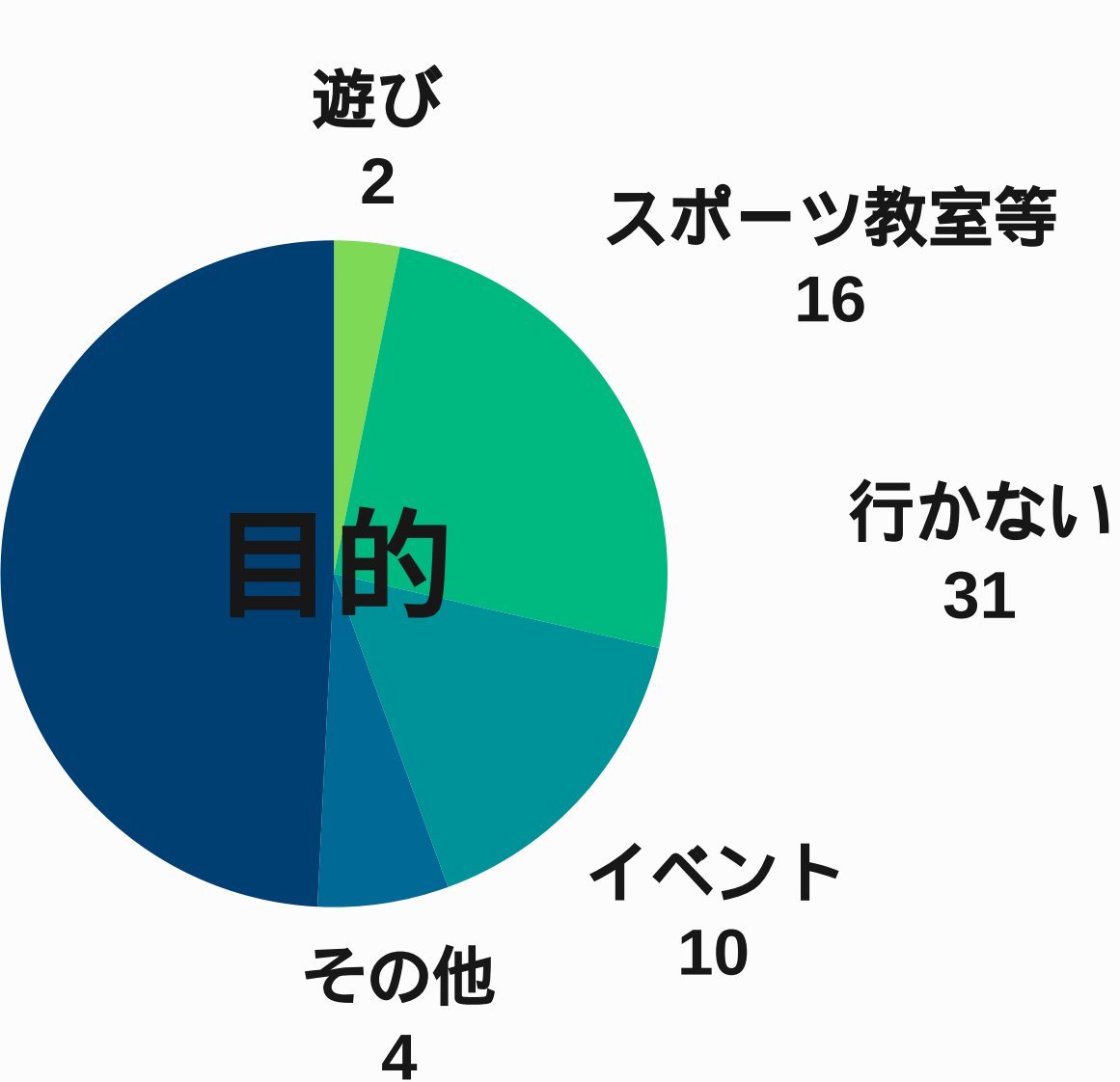
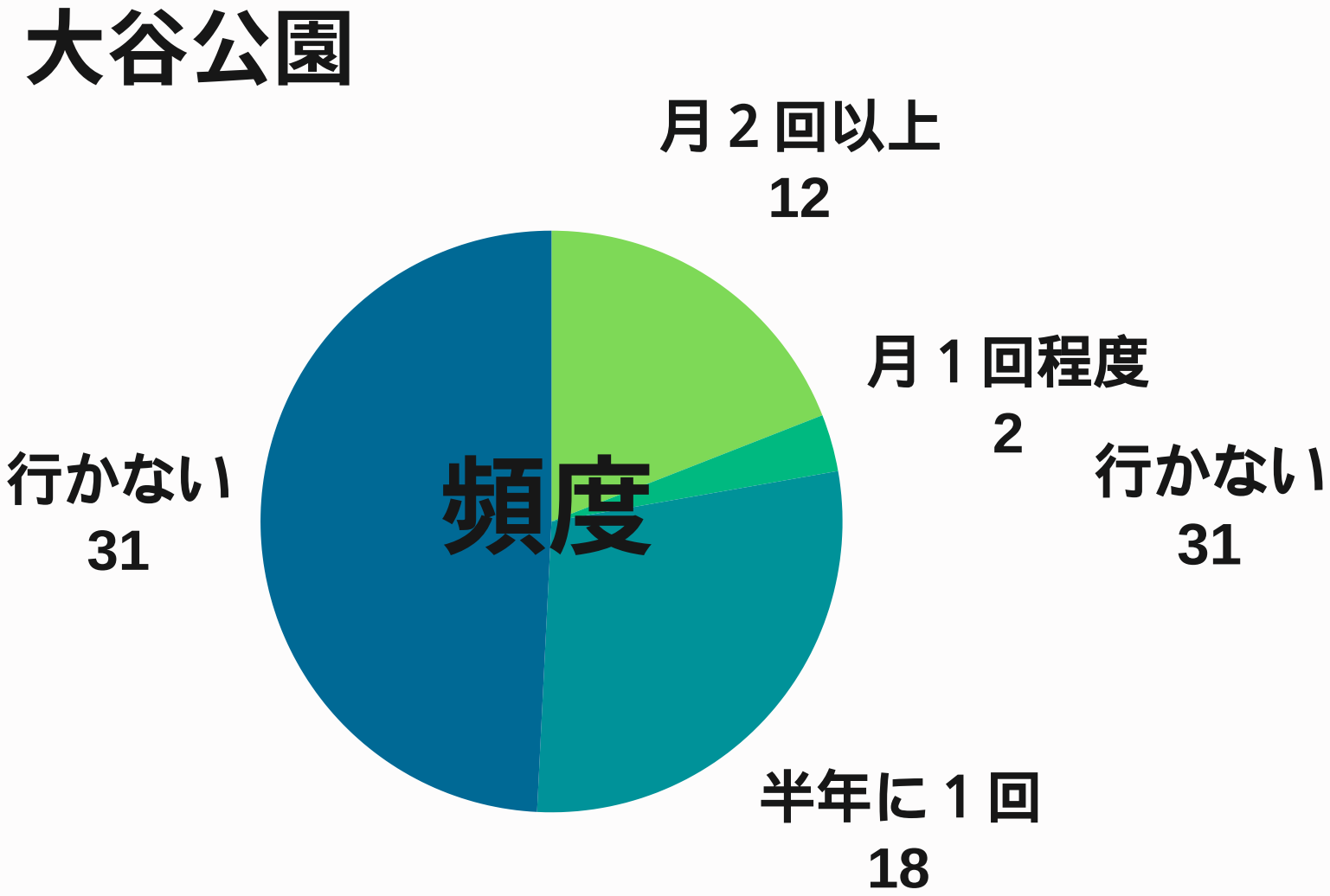
満足度4
23

満足度の理由（優位性と劣位性）

- ・ 遊具が充実した
- ・ きれい、芝生が良い
- ・ ちょうど良い広さ、混み具合
- ・ 遊具だけではなくどんぐり拾いや自然もある
- ・ 子どもの友達や親に会える
- ・ 今の子どもの遊びの内容とマッチしている
- ・ 近くに図書館や子育て施設がある

- ・ 池が汚い、柵などが無い
- ・ 石畳や側溝など遊具以外の整備不足
- ・ 近くに国道などがあり危険
- ・ トイレ、自販機周辺の高低差などが危険
- ・ 最近は人が多いので混雑している
- ・ 世代間で遊び方が違うので戸惑う
- ・ 日陰が少ない、休憩場の不足

大谷公園



満足度の理由（優位性と劣位性）

- ・ 施設、トイレ等も管理、掃除が行き届いている
 - ・ 施設が揃っており色々なスポーツができるため
 - ・ 敷地全体が広い
 - ・ イベントがあるため
- ・ 公園として行く理由がない
 - ・ プールが無く行く機会がなくなった
 - ・ 小さい子が遊べる遊具が全くない
 - ・ お金が多くかかるイメージがある
 - ・ 混雑時は駐車場が不足する

松尾公園への意見、要望

- ・池の再整備や安全管理を含めて、噴水や川遊び、夏場の遊び場が欲しい
- ・子ども、大人も興味が持てるビオトープに生まれ変わってほしい
- ・ネット設置でボール遊びが安全にできるように
- ・遊具（ブランコ等）をさらに増やしてほしい
- ・ベンチや東屋など大人も休憩できる施設整備、雨天後の路面環境整備
- ・ドッグラン、ペットと遊べるアトラクション
- ・トイレ周辺、落下防止策等の設置
- ・子どもの年齢が離れていると遊びにくいのでエリア分けが必要
- ・図書館、ぽけっと、わたむきホールもあり、過ごしやすい環境。もっと繋がっていいと良い

etc・・・

大谷公園への意見、要望

- ・混雑時の駐車スペース改善、第2駐車場の区画線明確化、トイレの洋式化
- ・グラウンドの芝生化、トレーニング施設の充実、遊具（室内含）設置、プール施設、星を見るテラス
- ・グラウンドに日陰がないため夏場は使いにくい、熱中症対策環境整備、全天候型グラウンド
- ・ストリートバスケット、フットサル、スポーツクライミング施設の新設、プロチームアリーナ化
- ・アスレチックコース、ジョギングコース、周遊できるコースの整備
- ・利用回数が多い方向けの優待ポイントカード、キャッシュレス決済機能、ネット予約導入
- ・春先の桜も見どころでお花見スポット等視覚的に魅力的な公園にしてほしい
- ・管理者が企画し、無料開放の日や子どもたちが楽しめるイベントの継続実施
- ・大谷公園はスポーツ、松尾公園は遊び場というような差別化が必要

etc・・・

9つの分類分け

今回、封鎖人口を用いた推計も加味した新たな分析手法として、次のような9つの分類を設定した。縦軸は移動仮定における若年女性人口減少率による分類、横軸は封鎖人口における若年女性人口減少率による分類である。

◆ 自立持続可能性自治体(A)

移動仮定、封鎖人口ともに若年女性人口の減少率が20%未満の自治体は、「自立持続可能性自治体」として位置付けている。減少率が20%未満であれば、100年後も若年女性が5割近く残存しており、持続可能性が高いと考えられるからである。

◆ ブラックホール型自治体(B-①、B-②)

移動仮定における若年女性人口の減少率が50%未満である一方、封鎖人口における減少率が50%以上の自治体は、人口の増加分を他地域からの人口流入に依存しており、しかも当該地域の出生率が非常に低い。いわば人口の「ブラックホール型自治体」と呼ぶことができる。

◆ 消滅可能性自治体(C-①、C-②、C-③)

前回と同様に、移動仮定における減少率が50%以上の自治体である²。

◆ その他の自治体(D-①、D-②、D-③)

上記の分類にあたらない自治体で、そのほとんどで若年女性人口が減少する見込みである³。減少状況によって、必要な対策が異なることに留意する必要がある。

自治体の人口特性格別9分類(自然減対策と社会減対策)

A 自立持続可能性自治体: 65
B ブラックホール型自治体: 25 (B-①:18、B-②:7)
C 消滅可能性自治体: 744 (C-①:176、C-②:545、C-③:23)
D その他の自治体: 895 (D-①:121、D-②:260、D-③:514)

封鎖人口	減少率20%未満	減少率20～50%未満	減少率50%以上
移動仮定			
減少率20%未満	A 自立持続可能性	D-① 自然減対策が必要	B-① 自然減対策が極めて必要
減少率20～50%未満	D-② 社会減対策が必要	D-③ 自然減対策が必要 社会減対策が必要	B-② 自然減対策が極めて必要 社会減対策が必要
減少率50%以上	C-① 社会減対策が極めて必要	C-② 自然減対策が必要 社会減対策が極めて必要	C-③ 自然減対策が極めて必要 社会減対策が極めて必要

(注)縦軸および横軸の「減少率」は、若年女性人口(20～39歳)の減少率

自治体名		分析結果				2050年人口(移動想定)			2050年人口(封鎖人口)			2020年	
		9分類	前回比較 (消滅可能性)	前回比較 (増減率の分類)	前回比較 (増減率)	若年女性人口 減少率(%)	若年女性人口	総人口	若年女性人口 減少率(%)	若年女性人口	総人口	若年女性人口	総人口
滋賀県	日野町	D-③		▼②	▼0.5	▼42.9	1,078	15,444	▼23.3	1,449	16,384	1,889	20,964
	竜王町	D-③	α	△②	△8.6	▼43.7	564	7,872	▼23.1	770	9,386	1,001	11,789
	愛荘町	D-③		▼②	▼5.3	▼23.5	1,794	19,262	▼20.5	1,864	19,196	2,345	20,893
	守山市	A		▼②	▼5.5	▼11.1	8,065	85,059	▼15.7	7,649	78,612	9,074	83,236
	高島市	C-②	β	▼②	▼6.8	▼55.5	1,598	28,228	▼27.1	2,622	32,386	3,595	46,377
北海道	栗山町	C-①	γ-①	△②	△8.0	▼50.9	375	5,917	▼17.6	629	7,216	763	11,272
新潟県	出雲崎町	C-①	γ-①	△②	△4.3	▼62.9	95	2,158	▼17.2	212	2,424	256	4,113
埼玉県	寄居町	C-②	γ-①	△②	△5.0	▼53.5	1,293	20,587	▼35.5	1,794	22,577	2,782	32,374
神奈川県	寒川町	D-①		△①	△13.0	▼19.4	3,807	42,167	▼26.6	3,468	39,248	4,724	48,348
	開成町	A		△②	△2.7	▼10.7	1,644	18,790	▼15.3	1,559	16,314	1,841	18,329
東京都	新宿区	B-①		△①	△14.5	▼6.6	55,474	364,111	▼68.2	18,885	284,655	59,390	349,385
福井県	おおい町	D-②	α	△①	△13.4	▼39.1	364	5,252	△10.5	661	6,523	598	7,910
岡山県	奈義町	D-②	α	△①	△10.0	▼45.3	243	3,687	△3.4	459	4,514	444	5,578
広島県	安芸高田市	C-②	γ-②	▼②	▼2.2	▼55.9	814	14,775	▼28.3	1,322	16,449	1,845	26,448
沖縄県	南風原町	A		▼②	▼3.5	▼14.0	4,309	41,255	△6.6	5,345	45,773	5,012	40,440